

新世紀とやま文化振興計画【平成30年改定版】 (概要①)

計画の趣旨等

- (1) **趣旨** 本県の文化を取り巻く環境が大きく変化し、新たな施策・事業の展開等、状況変化等が生じていることから、計画を見直すもの
- (2) **計画の位置付け** 富山県民文化条例第8条第1項に基づく文化振興に関する基本計画
文化芸術基本法第7条の2第1項に基づく地方文化芸術推進基本計画
- (3) **計画の期間** 平成38年度までの概ね10年間

目標

富山から世界に、人と文化の輝く「元気とやま」の創造



文化活動の現状と課題

①県民の文化活動

- ・県民の文化の鑑賞や創作活動等は、活発である。
- ・子どもたちが文化に親しむ機会の拡充を図ることが重点施策として求められている。
- ・芸術各分野の活動は活発だが、高齢化により愛好者の減少が懸念される。
- ・県芸文協は全国的にトップレベルの活動を展開

②文化施設

- ・文化施設のハード面の整備は全国トップレベル
- ・企画展示、教育普及活動、双方向の芸術文化体験や新たな交流の場の創出などソフト面を充実させ、観覧者の増加を図ることが必要
- ・ふるさと文学の普及、資料の収集・保管が課題

③高齢者、障害者の文化への参加

- ・文化施設に足を運びにくい人たちへの芸術鑑賞、体験機会の拡充、ボランティアの拡充が必要

④次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動

- ・総合的な学習の時間等も活用し、学校での文化体験の取り組み充実が課題
- ・若手芸術家、伝統文化・芸能の後継育成が課題
- ・作品の発表や展示の機会の提供などが重要

⑤世界への文化の発信

- ・利賀は、アジアの舞台芸術の拠点として一層の充実が必要
- ・県芸文協は、海外文化団体と活発に交流

⑥伝統文化の掘り起こし、活用と発信

- ・おわら風の盆などの伝統芸能、世界遺産五箇山合掌集落等の文化資源を活かした発信が課題

⑦情報通信技術を活用した新しい文化の創造と発信

- ・SNS等新しいメディアを活用したPR、提供する映像情報等の充実が課題

⑧文化と産業の連携

- ・魅力ある地域文化の観光資源としての活用が課題
- ・「とやまの食」のブランドイメージの確立が課題
- ・売薬や銅器に由来する最先端のものづくり文化が発展

⑨文化を活かした地域づくり

- ・立山信仰や越中万葉等、地域には、特色ある伝統、歴史、文化を活かした活動が多いが、十分知られていない。
- ・文化を活かした賑わい創出が求められている。

県民アンケート調査(H28.8)		全国	富山県
この1年間に、文化に関する催しに出かけたことがある		59.2%	79.0%
この1年間に、自分で演じたり、作ったりしたことがある		23.3%	24.5%



施設	人口100万人あたり	全国順位
県内の文化ホール数	29.1館	全国1位
県内の美術館・博物館数	34.7館	全国3位

県立美術館・博物館等の観覧者数の推移 (人)						
	H23	H24	H25	H26	H27	H28
計	341,182	508,009	396,487	421,457	397,343	452,902

施設	H17.4～	H28.4～
県立の美術館、博物館等	小・中・高校の児童・生徒、障がい者の観覧料が無料	70歳以上の常設展観覧料等無料

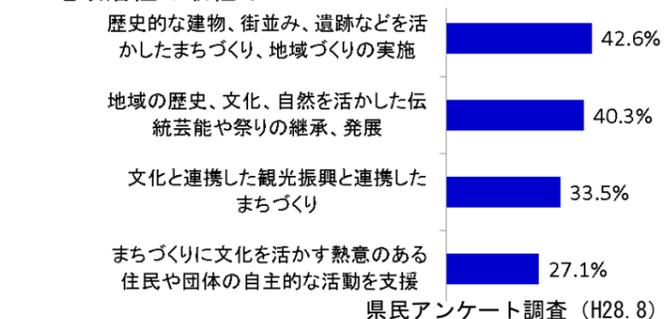
県民アンケート調査(H28.8)		H22	H28
児童生徒や障がい者、70歳以上の観覧料等の無料を知らない		—	66.7%
ボランティア活動をしていない		93.8%	94.1%

- 子どもが文化に親しむ機会を充実するため県等が力を入れたらよいこと
- 1位 鑑賞、参加する機会を学校教育の場において充実 56.7%
- 2位 子どもたち自身が参加、体験できる文化事業の実施 53.3%
- 3位 子どもたちを対象にした文化事業などの鑑賞機会の充実 38.7%

- ・国では2020年東京オリンピック・パラリンピック = 「文化の祭典」 ⇒ 全国各地で文化プログラムを実施
- ・「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産の登録
- ・富山県美術館の全面開館、国際北陸工芸サミットの開催、大伴家持生誕1300年、シアター・オリンピックスの開催など

国内外に富山の多彩な芸術文化を発信する絶好の機会

■ 力を入れるべき文化の創造性を活かした産業振興や地域活性の取組み



基本目標

1. 県民が幅広く文化の鑑賞や新しい文化の創造を楽しみ、文化を通じた交流や文化活動に参加することを拡大していく。特に、次世代を担う子どもたちが、文化に親しむことを促進する。
2. 質の高い文化を創造し、世界に発信する。これにより、富山県の文化のレベルアップを図るとともに、県民の誇りとなる文化面での「とやまブランド」を確立する。
3. 文化は、まちづくりや経済活動など地域社会に幅広く関わってくるものであり、にぎわいづくり、産業振興、観光との連携など、社会の各分野で文化と連携して、総合的な文化振興に関する施策を展開する。

施策の方向性

文化活動への幅広い県民の参加

- 身近なところで優れた文化を鑑賞する機会の充実
- 文化の創造への支援
- 文化を通じた交流・文化活動への参加の拡大
- 次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実

質の高い文化の創造と世界への発信

- アジアを代表する舞台芸術の拠点づくり
- 特色ある国際的な文化振興事業の展開と発信
- ふるさとの歴史・文化の再発見と発信
- 情報通信等技術を活用した文化の創造と発信

文化と他分野の連携

- 文化振興と観光振興
- 文化を活かしたまちづくり・地域づくり
- 豊かな食の磨き上げとブランドイメージの向上
- 文化力を活かした産業の振興

文化振興の4つの視点

- 文化を創造・鑑賞・支援する人材の充実
- グローバル新時代への対応
- ふるさとへの誇りや愛着の涵養
- 新たな価値の創造

■ (1) 本県を取り巻く状況変化や(2)文化審議会での意見を踏まえ浮かびあがってきた、文化振興に必要な4つの視点に照らし、基本目標を実現するために前期に重点的に取り組むべき施策を選定

前期5年間の重点施策

1. 文化の次世代の担い手の育成
⇒ 富山県美術館等における学校教育と連携した鑑賞授業・創作体験等
2. 世界に向け、新たな文化を創造・発信する文化交流拠点の形成
⇒ シアター・オリンピックスの開催、「立山・黒部」の魅力発信等
3. 越中万葉以来のふるさと文学など「ふるさとの歴史・文化」の魅力の再認識及び、その継承・発展
⇒ 大伴家持生誕1300年記念事業、伝統文化の発掘と発信等
4. アートとデザインをつなぐ取組みによる文化の創造など富山ならではの新たな価値創造
⇒ 富山県美術館での新時代に対応したデザインの視点の導入、デザインの活用による産業の活性化

- (1) 本県を取り巻く状況変化
 - ① 北陸新幹線の開業と新ゴールデンルートの形成
 - ② 陸・海・空の交通基盤の整備・活用
 - ③ 地方創生戦略の推進など地域の活力強化への動き

北陸新幹線の開業効果と地方創生戦略の二つを追い風として最大限に活かし、多様で成熟した富山の文化の優れた魅力の更なる向上と国内外への発信に向けた取組みが必要

(2) 文化審議会での主な意見

人づくり	・ 幼少期から文化に触れる機会の確保が重要 ・ 観覧料の大学生無料化を検討すべき ・ 学校教育との連携事業について参加型など工夫を ・ 学校と地域、家庭が連携した担い手の育成が大切 ・ 一流の音楽家の演奏や舞台の鑑賞機会を充実すべき
グローバル	・ シアター・オリンピックスは発信力が強い。富山から文化の発信を ・ 富山の素晴らしい文化を磨き発信することが重要 ・ デザインを重視していることを国内外に発信すべき ・ 海外からの若手の受入れも積極的に考えるべき
ふるさと	・ 人口減少対策に、ふるさとに魅力を感じる大切 ・ 県民の誇るべき富山の文化の中で人を育てることが大切 ・ 大伴家持などの素晴らしい偉人の顕彰・追慕は重要で、世界に対するアピールにもなる。
新たな価値	・ 多様な価値を考える力＝文化にあり、理系と融合することが大切 ・ 富山らしさを重点的にブラッシュアップすべき ・ 富山県美術館に来ないと体験できないもの、初めてわかるものを作っていくべき

1. 県民の視点に立った成果重視の計画

- 県民の視点に立って、施策の実施によってどのような成果がもたらされたかを明確にするため、成果を重視する。
- 基本目標を具体的にイメージするための参考となる「県民参考指標」を設定

■ 新総合計画と連動し、2026年度の指標を新たに設定

基本目標に対応した「県民参考指標」	概ね5年前	現況	2021年度、2026年度の姿		目標設定の考え方	
			2021年度	2026年度		
基本目標1	芸術文化に親しむ機会が充足されていると思う人の割合 県政世論調査において「音楽や演劇、美術など芸術文化に親しむ機会」について「充足されている」と答えた人の割合	19.5% 2011 (H23)	37.7% 2016 (H28)	45%	50%	文化を通じた子どもたちの交流の促進や双方向で芸術文化を楽しむ場としての富山県美術館の活用、文化の次世代の担い手の育成等により、芸術文化に親しむ機会を充実させることで、増加を目指す。
	県立文化ホールの利用率 県民会館、教育文化会館、高岡文化ホール、新川文化ホール、県民小劇場におけるホールの利用率	62.2% 2011 (H23)	64.4% 2016 (H28)	70%	70%	多彩な自主文化事業の推進やニーズに応じた施設整備、SNSを活用した広報など、利用・鑑賞環境等の整備に努め、利用率の増加を目指す。
	地域文化に関係するボランティア活動者数 指定文化財など地域の文化資源を対象として保存伝承、体験学習会（研修会）等の活動を継続的に実施している団体の活動者数	13,510人 2011 (H23)	13,770人 2016 (H28)	14,000人	14,150人	県民が芸術文化の創造に参加できる場の拡充や文化の担い手の育成等により、県民の文化に関する意識を高めることで増加を目指す。
	○県民が身近な場で親しむことのできるコンサートの実施数 小学校への出前コンサートや県立文化施設でのロビーコンサートなど	90回 2012 (H24)	93回 2016 (H28)	100回	100回以上	身近な場での鑑賞機会の拡充に努め、年間100回の水準を目指す。
基本目標2	文化に関する国際交流事業（派遣、招へいの計） 県・市町村・学校・団体等の国際交流事業数	40件 （派遣23件 招へい17件） 2011 (H23)	57件 （派遣31件 招へい26件） 2016 (H28)	60件	63件	特色ある国際文化交流を積極的に支援することにより、国際交流事業数の増加を目指す
基本目標3	○総合デザインセンターの商品化支援件数（累計） 総合デザインセンターの支援によって商品化された件数	116件 2012 (H24)	167件 2016 (H28)	240件	315件	総合デザインセンターの支援機能を強化することにより、年平均15件程度の商品化を目指す。

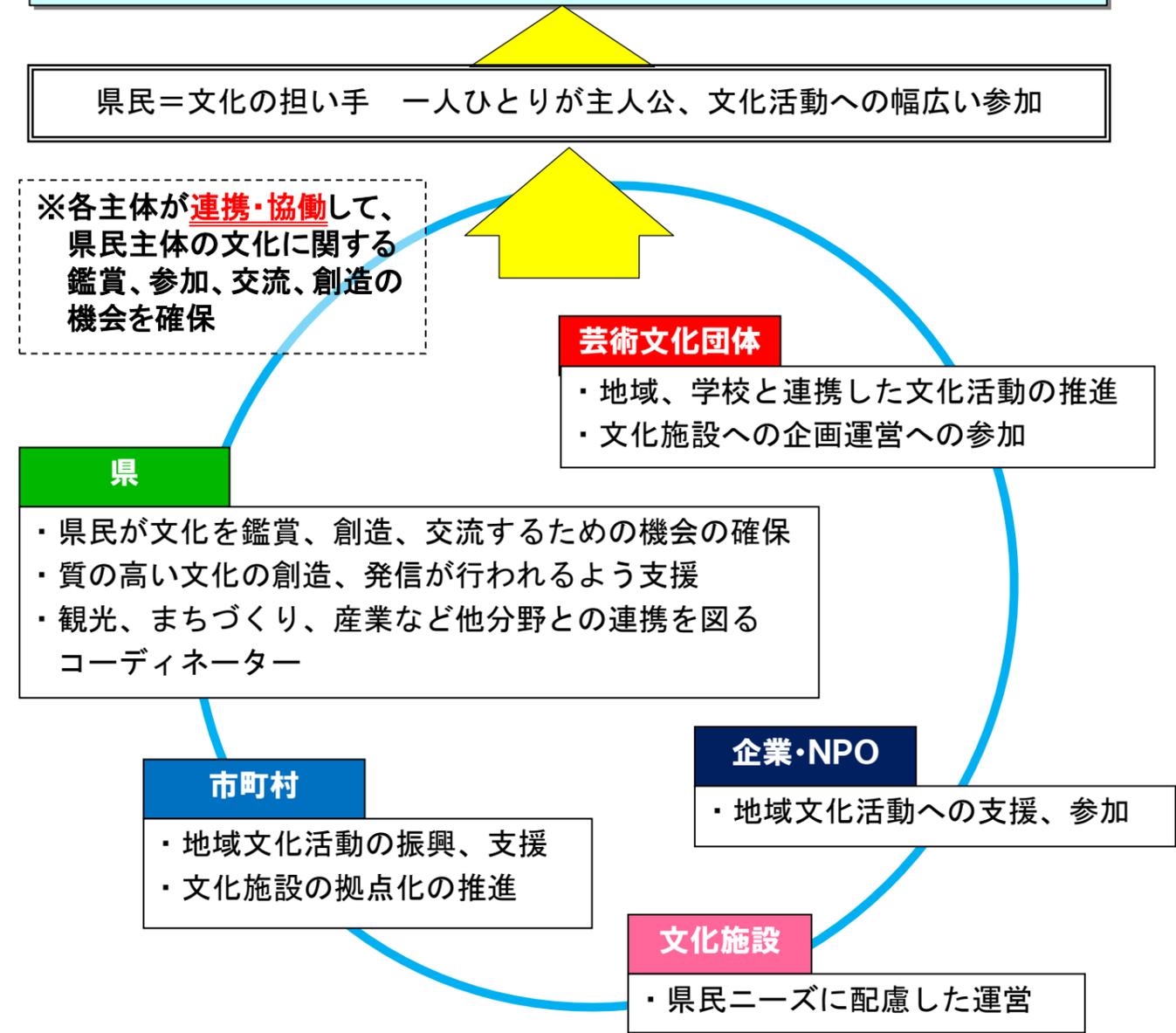
2. 県民と目標を共有し、協働で文化振興に取り組む計画

- 文化の担い手＝「県民一人ひとり」
- 県や芸術文化団体、企業などさまざまな主体の連携が不可欠
- 文化振興を図るため、各主体に期待される役割を明記

「富山から世界に、人と文化の輝く『元気とやま』の創造」の実現

県民＝文化の担い手 一人ひとりが主人公、文化活動への幅広い参加

※各主体が連携・協働して、県民主体の文化に関する鑑賞、参加、交流、創造の機会を確保



次の世代につなぐーとやま文化の夢構想

世界をリードする芸術拠点の形成

とやま文化の世界展開

世界ブランド「立山黒部」の文化発信拠点の形成